

平成 30 年度事業計画

I. 調査研究事業部門

基本方針

社会環境の変化に伴い、たばこを始めとする酒、茶、コーヒーといった様々な嗜好品の社会的位置づけも変化してきている。これら嗜好品に関する諸情報と関連する社会の動きを読み解き、さらに基本に立ち返って嗜好品の個人的・社会的な存在の意味を考え、その研究成果を提供していくことの必要性はますます高まっている。TASC はこれに応えるため、嗜好品を手がかりに、現代における人間の嗜好、心理、欲求、価値観、行動及び個人と社会との関わり等について、心理学・社会学等の研究手法を用いた調査研究を継続的に実施していく。また、嗜好品に関する人文・社会科学分野の研究を促進し、学術の振興に寄与することを目的に、大学等の研究者への助成を引き続き実施する。調査研究によって得られた成果については、学会発表、論文投稿を行い、併せて、これに関する考察を財団機関誌や研究誌等の定期出版物、TASC ウェブサイトを通じて広く国民への普及啓発を図る。

1. 調査研究事業

平成 30 年度に計画する主な調査研究は次のとおりである。

(1) 嗜好品と人間・社会に関する調査研究

TASC が実施してきたこれまでの心理学および社会学研究の成果を踏まえ、嗜好品に関する心理学および社会学各領域の調査研究を実施する。研究の遂行にあたり、自主研究の他、外部の研究者を交えての研究会の開催や、共同研究を実施する。その研究成果等については、学会発表や学会誌へ投稿するとともに、機関誌や TASC ウェブサイトにおいても積極的に普及啓発を行う。

(2) 嗜好品文化研究

「嗜好品文化研究会」と共同で、嗜好品に関する横断的なテーマについての研究会、嗜好品文化フォーラムの開催、並びに大学院生を対象とした研究奨励事業を行う。

(3) たばこ史・たばこ産業史研究

TASC に蓄積されたたばこ史に関連する資料整備を踏まえ、大学等研究機関の研究者や在野の研究者との連携を強化し、たばこ史・たばこ産業史研究を行う。

(4) 研究関連情報の整備

TASC 所蔵の書籍や研究報告書等、たばこを始めとする嗜好品に関する諸情報について研究関連業務への効果的な活用を図るため継続的な資料整備を実施する。

2. 研究助成事業

嗜好品等に関する人文・社会科学等の分野の研究を促進し、学術の振興に寄与することを目的として、日本国内の大学・研究機関等に所属する研究者を対象に研究助成を実施する。研究助成の成果は、助成研究報告書に収録し、国会図書館に納本するとともに、TASC ウェブサイトで公開する。

3. 普及啓発事業

普及啓発活動は調査研究活動の成果等を広く国民に提供する目的で実施するものである。平成 30 年度に計画する主な普及啓発活動は次のとおりである。

(1) TASC 定期出版物の発行

① 「談」

様々な分野の研究者・有識者へのインタビューを通じて、時代と共に変化する社会の大きな流れを読み解き、次の時代を生きる価値観を模索するための研究誌として、年間 3 回発行する。

② 「TASC MONTHLY」

財団の活動状況報告及び様々な分野の研究者・有識者による、現代に生きる人間及び社会に関わる論考やエッセー等を掲載して毎月発行する。

③ 「たばこ史研究」

大学等研究機関の研究者および在野のたばこ史に関する研究者の論文等の発表の場として、年間 4 回発行する。

④ 「平成 29 年度事業概要」

(2) TASC ウェブサイトによる情報発信

嗜好品研究やその考察を通じて浮かび上がった現代社会の諸問題について、背後にあるメカニズムや本質、問題を克服するための方法等に関する有識者の論考・示唆を取り纏め、TASC ウェブサイトに TASC MONTHLY 特別シリーズとして、引き続き情報発信を行う。平成 30 年度は、前年度に引き続き、「情報テクノロジーの進展がもたらす近未来社会の姿を考える」を掲載する。

4. 受託調査研究事業

(1) たばこ関連資料の保管・管理等

(2) 現代社会の諸問題等に関する講演会の企画・実施

II. 博物館事業部門

【重点項目】

博物館ミッションおよび平成 32（2020）年度を目途とする博物館中期計画に基づき、多様な来館者の満足度向上および博物館機能の充実・強化を最優先として、円滑かつ安定的な運営を行う。

1. 来館者サービスの向上

- (1) 常設展示・視聴覚ホール・閲覧室等の利用環境の整備を積極的に進める。
- (2) 平成 29（2017）年度に導入した日本語・英語の音声ガイドに続き、中国語・韓国語等の常設展示音声ガイドを制作・導入し、多言語化を着実に推進するとともに、多様な来館者の対応について継続的な検討を行う。

2. 調査研究活動の充実

- (1) 従来からの継続テーマの続行とともに、今後の新たな方向性への模索を行う（含む喫煙形態の進化について等）。
- (2) ICOM 各国際委員会の総会をはじめ、様々な国際会議への積極的な参加により、海外の博物館や学芸員との交流を通じ、海外博物館についての情報を収集し、今後の運営・活動の改善に資する。
- (3) JTI オーストリアとの連携を強化し、同コレクションの有効活用を促進する。

3. 積極的な広報活動の展開

- (1) 40 周年記念展を中心に、魅力ある特別展の実施と情報発信に努める。
- (2) 若年層をターゲットとした SNS 系広告の展開を検討する。
- (3) 組織的かつ総合的な広報力の強化を図る。

4. 地域社会との良好な関係維持

行政および近隣社会との良好な関係を維持し、他博物館・資史料室との連携を強化。

【事業活動】

1. 調査・研究活動

平成 30（2018）年度の活動にあたっては、これまで取り組んできた「たばこと塩の歴史と文化」に関わる調査研究および収蔵資料に関する調査研究という 2 つの大きなテーマによる構成は継続しつつ、新たな方向性の模索も含め実施する。

2. 情報発信活動

(1) 特別展

特別展 6 回の開催。

(2) イベント・講座

たばしお講座（10 回程度）、古文献・古文書を読む会（10 回）、たばしお寄席（2 回程度）および塩の実験イベント（夏期以外の 5 日程度）の開催。

(3) 常設展示・視聴覚ホール・図書閲覧室

① 江戸時代のたばこ文化コーナー（6～8 回）およびコレクションギャラリーの展示替（3～5 回）。

② 特別映画や特別展の内容に合った文化映画上映（土・日曜、祝日等）。

③ 図書閲覧室の円滑な運用とともに、図書資料データの入力および配架整理作業等をすすめ、情報発信機能を強化。

(4) 周知 PR

平成 30（2018）年 11 月開催予定の「40 周年記念特別展」等の展覧会や所在地周知 PR に加え、Web 広告および SNS 系も活用し周知 PR を図る。

3. 資料収集・整理・保存

(1) 収蔵庫内の整備および収蔵資料のデータベース入力を行い、収蔵資料の保管・管理体制の確立をすすめるとともに、博物館に即した IPM（総合的有害生物管理）体制の確立を目指す。

(2) 寄贈資料の受け入れおよび寄贈者への適切なレファレンスを行う。

(3) 優先度・必要度が高いと評価された資料は、JT と調整のうえ購入する。

(4) ポスター、パッケージの収集をシステム化し、新製品の収集を継続する。

(5) 資料の良好な保存のため、計画的に補修を行う。

4. その他の活動

(1) 人材育成・強化

(2) 総合案内・ミュージアムショップ

機能充実に向け、来館者動向の調査を行いつつ、新たな来館者サービスや商品ラインナップの充実など、来館者満足度の向上を図る。

(3) 地域との協調

① 墨田区周辺の地域博物館、企業系博物館等との連携。

② 「東京・ミュージアムぐるっとパス」（東京都歴史文化財団）への参加継続。

③ 墨田区をはじめとした官公庁等との良好な関係の維持・継続。

(4) 博物館実習の受け入れ